

「あうち」集が冊子になり、刊行されました

当HPで以前に「『校長室だより』に感嘆！（「雑学」バックナンバ - 書籍等読後感関係（ ）P、003.2.11.：参照）」を記載しました。

その中で「いずれの『たより』の中に流れているのは、教育活動とは何か、係わり合うとは何か、係わり手として思考・検証するとは何かを、具体的な子どもの行動と絡めて追い求め、思考し続けている教育者そのものの姿勢である。」と記しましたが、この随想が広く、多くの方々の目に触れればいいのになあと感じていました。

今回「校長室だより」集の一部が、「障害児教育学研究 - 日本障害児教育実践学会誌，第10巻第1号，2005年8月． - 」として纏めて冊子となり刊行されました。

この冊子の編集付記にも「『あうち』は知る人と知る、障害児教育の金言集です。これを知る人がもう少し増えて然るべきでないかと考えてこの号を『あうち』の特集号に充てました。」と記されています。

私と同じ想いの方が多くいたことを知り、また刊行されたことをたいへん喜んでいきます。

なお、「あうち」の言葉の意味については、以前にHPに掲載した「あうちの意味するもの（「雑学」バックナンバ - 随想等関係（ ）P、2003.2.18.：参照）」を併せてご参照ください。

この学会誌・特集号は、下記の学会事務局へ連絡すれば手に入ります。

日本障害児教育実践学会・事務局 宮城教育大学 菅井裕行 先生

TEL・FAX 022-214-3503

追伸：「あうち」筆者である志賀先生は、職場を異動されてもタイトルを変えて今もその職場で書き続けておられ、時々お会いする時に、折々のバックナンバ - をわざわざ持ってきて下さり、また、ご指導もいただいています。

いつの日か、最近の志賀先生の随想も刊行されることを願っています。

（2005年8月28日記）